

平成20年度

## 大学改革推進事業（「アセアン+3」コンソーシアム構想）

### （取組紹介）

本学は、1966年4年制開学以来、留学生別科（Asian Studies Program）で「英語での授業」を提供しており、短期留学生を中心とした受け入れと学生の海外派遣で大きな実績がある。近年の年間受け入れ外国人学生は約700名、留学する日本人学生は約1,700名である。この経験を活かし、これまで欧米圏中心であった本学国際交流をアジア圏にもより広げようとする意図が本取組みにある。

本構想の特色は、本学の戦略的方向性を長期的視野に立ち進めようとするもので、その目的を「アジアを知りアジアを担う次世代国際人の養成」とし、そのための学修成果を派遣先大学と提携先大学での「二重学位の取得」とした。取組みの具体的目標は3つある。第一に留学生の受け入れを学位取得のため学部レベルで行い、授業をすべて英語で提供する体制を整える。さらに、提携大学と学位認定のための協議を行い「二重学位」単位認定時に留学派遣先の言語を取得し、第二外国語としてのアジア圏言語の習得ができるプログラムの構築を目指す。第二に、学生交流の現実化である。アジアを知り、アジアで活躍する重要性を具現化し、提携先の各大学のプログラムの魅力・特色を学生に伝えて、応募者を募る。第三に学部での留学生受け入れに、授業を英語で提供することに関連して、日本語を母国語とする教員を本学提携大学で研修することを計画した。このため、学位取得以外の短期留学についても視野に入れている。

2009年3月末、天津外国語大学・釜山外国語大学・バンコク大学・ベトナム国立社会・人文科学大学及び本学の5大学で Consortium を成立させた。本学が中心となり、各大学とのカリキュラム調整協議を行っている。逐次本学教職員が相手方大学を訪問したり、相手方から本学への訪問を行っている。さらに2010年8月末、提携5大学のコンソーシアム担当教職員が本学にてプログラム運営の課題を協議した。

2010年10月末現在、中国・韓国から30人が学位留学生として、3年次編入学した。さらに、本学からは5人を中国と韓国に学位生として派遣した。2011年4月にはタイ・ベトナムから受け入れを予定している。過去2回、19人の日本語を母国語とする教員をアメリカ合衆国ウイスコンシン大学オクレア校へ英語授業のためのFD研修に派遣した。コンソーシアムを拡大していくことは本プログラムを提案する本学の責任であり、2010年11月にインドネシアのサティアワチャナ大学が加盟した。（本学を含め6大学となった。）今後も、加盟大学について順次拡大を図っていくこととしている。